

とちぎル・ボーセモータースポーツ

開幕3カ月快走

茂木町を拠点に、国内のレースに参戦中の自動車レーシングチーム「とちぎル・ボーセモータースポーツ」が活躍している。今季の開幕戦から約3カ月。若手ドライバーがポイントランキングで上位に食い込み、国内最高峰のレース「スーパーフォーミュラ」(SF)では2戦完走を果たすなど順調な滑り出しを見せている。

若手が次々上位 SFは2戦完走

ツインリンクもてぎ(茂木町)で5月11、12日に開かれたフォーミュラチャレンジ・ジャパン(FCCJ)。11日の第3戦は予選3位で決勝に臨んだ高校生の山下健太選手(17)が独走で初優勝。12日の第4戦は6位に終わったものの、ポイントランキングは、1位に1ポイントの差を浮上した。12日には、FCCJの一つ下のカテゴリーのスーパー



①SFで2戦連続完走を果たした嵯峨選手②SFもてぎ選手権第3戦での初優勝を喜ぶ久保選手(中央)③いずれも、とちぎル・ボーセモータースポーツ提供



FJ(SFJ)もてぎ選手権の第3戦も開かれ、第1、第2戦ではいずれも2位だった久保稔太郎選手(19)が初勝利。ポイントランキングでもトップに躍り出た。さらに、長谷川優太選手(21)も3戦連続で入賞でポイントランキングで7位につける。

「昨年から久保選手はSFJを標準に練習などに取り組んできたことがスタートダッシュに成功した要因。山下選手もF3という上のカテゴリーに上がるためにも、メンタル的な部分を含めてどう結果を残していけるか注目していきたい」と坪松唯夫監督。

一方、チームとタッグを組んで3年目の嵯峨宏紀選手(30)をドライバーに擁するSFは、第1戦の鈴鹿で17位、第2戦のオートポリス(大分県)は11位でい

れも完走。第2戦では、ピットから出るときに交換したタイヤに接触したことでペナルティーを受けたことが順位にも響いた。

それでも坪松監督は「走行データなどから予選は6位になれる手応えもあった。完走したことで、タイヤや燃費などの次のレースにつながるデータも残せたことは良かった」としながら「日本最高峰のレースで、表彰台に上がるのは簡単なことではないが、勝負できるところまでできていく」と実感している。

8月3、4日は、地元のツインリンクもてぎで、SFと全日本F3選手権が開かれる。「地元でのレースなので結果はもちろんのこと、町の人ともピットを盛り上げるようなイベントもできれば」と話す。

(田中正一)